療育研修会　　岩手県　支部

◆テーマ　筋ジストロフィーのリハビリテーション　講師　都竹　誠　先生

訪問看護支援事業所の理学療法士として、元筋ジストロフィー専門病院での経験や治療の研究を活かし、在宅の筋ジストロフィー患者へのリハビリテーションを実施している。

リハビリテーションの効果やその意義について、スライドを使い研修を受ける。

病状の進行による機能障害の変化。筋力低下が引き起こす拘縮、背骨の変形、胸郭の変形で呼吸機能の低下などの危険性。進行を防ぐ対策の必要性を再認識した。

筋肉や関節の構造、機能低下が引き起こす廃用性筋萎縮からの回復方法として、マッサージやストレッチの効果。更に定期的に専門医による診断、訪問看護リハビリテーションの活用法について指導を受ける。

在宅でリハビリテーションを継続する工夫。ストレッチの原則と実施上の注意点について説明。

講演の後、下肢と手のストレッチ実技指導と、質疑応答を実施した。

◆テーマ　西多賀病院における在宅支援。東日本大震災を経験して・・・(これからの在宅医療について考える)　講師　相沢　祐一　先生

３月１１日発生した東日本大震災は、東北地方の太平洋沿岸を津波が襲い壊滅的な被害と停電になった。停電により人工呼吸器を使用する在宅患者と、病院として対応した状況や、災害対策などの心構えについて研修。

病院の対応状況は、在宅で療養する患者の安否確認。人工呼吸器を使用するＡＬＳ患者４名、筋ジス患者４名を救急隊と家族の要請を入院の受け入れ。

自家発電機の稼働で３日間の停電を乗り越えた。在宅患者の受け入れは、医療機器使用者を優先に、病院としての診療機能の維持に努めた。

災害対策や万一に備え、自分の暮らしに最小限必要なものは常時備えること。自分の命は自分で守ろうという心構えが大きかった。

特に人工呼吸器使用を必要としている患者は、自発呼吸がある方でもバッテリーの確保やアンビューバックの用意。器械本体を内部バッテリーがあるものに変更してゆく。

電源確保対策の指導助言、訪問看護ステーション、訪問介護事業所との連携が必要であること等について説明と指導を受けた。

療育研修会実施状況　岩手支部　参加数　25名

テーマ　◆筋ジストロフィーのリハビリテーション　◆西多賀病院における在宅支援～大震災を経験して～

講師　理学療法士　都竹　誠　／　医療社会事業専門員　相沢　祐一

実施場所　岩手県民情報交流センター「アイーナ」会議室

実施を終えて（感想等）

（1）研修内容と開催時間の計画は良かった。リハビリの実技指導の時間をもっと欲しかった。今後も実施して欲しい。〔女性・保護者〕

（2）リハビリの目的や意義を理解ができた。変形予防に装着している装具に苦痛を訴え、疑問を持っていた。変形の原因や今後の対策も相談ができて良かった。〔女性・保護者〕

（3）自宅で親がリハビリをするのは難しく、時間が取れないでいる。訪問リハビリなどの制度利用もあることを初めて知った。〔男性・患者〕

（4）訪問看護や医療の制度を知らなかった。在宅で利用できるサービス内容をもっと詳しく聞きたかった。再度研修会や勉強会を開催して教えてほしい。〔女性・患者〕

（5）研修会に参加し、他の親や患者さんと一緒になり、共通した課題を勉強することで良く理解できた。とても良い研修会だった。〔女性・保護者〕

（6）万一の場合に入院もできる専門病院が有れば、安心して在宅療養できるので県内にも欲しいと思った。訪問看護やリハビリの利用制度を知ることができた。〔男性・患者〕